

中島紀著

柿本人麻呂と小野小町

武蔵野書院

序 『小倉百人一首』の二つの歌

『百人一首』の人麻呂と小町の歌を例にとって、この本の意図するところを汲んでいただく。

柿本 人麻呂

あしびきの やまどりのおの しだりおの ながながしいよを ひとりかもねむ

数ある人麻呂の名歌の中かなぜ相聞歌として知られるこの歌が『百人一首』に選ばれたのか。私
なりの答えは、それが

大和の大王家の祖とその姓、そして人麻呂の血筋と時代までを示唆しているから

である。

小野 小町
 はなのいろは うつりにけりな いたずらに わがみよにふる なかめせしまに
 小町のこの歌にも歴史背景があるのだろうか。一つの解釈は、
 これが、仁明帝更衣であった小野吉子の辞世の歌
 である。

目次

序 『小倉百人一首』の二つの歌

第1章 柿本人麻呂と小野小町を繋ぐもの

古事記の因幡の白兔とわに……………9
 歩きはじめ。石上神宮から和邇下神社そして菅原の里……………12
 理科系人間の目でみた和銅元年……………15

第2章 『万葉集』や『記紀』の中の歌

冒頭の衝撃——雄略天皇の歌……………23
 影媛あわれ……………27
 舒明天皇と中皇命……………29
 難解な額田王の歌……………33
 入鹿暗殺から天智天皇の薨去まで……………38

第3章 大和の大王家と柿本人麻呂

『百人一首』の人麻呂の歌……………43
 伝承や和歌を読み取る際の方法論……………44

『今昔物語』……………	46
四国霊場八七番補陀落山長尾寺……………	50
「あしびき」の歌の漢字表記……………	52
『日本霊異記』……………	62
栗田氏……………	63
小野の分枝の残りの候補……………	67
春から秋へ……………	69

第4章 人麻呂のいくつもの名

麻績王……………	71
大津皇子の謀殺事件と弓削皇子……………	74
当麻真人磨と当麻公智徳……………	88
柿本媛と猿丸大夫……………	94

第5章

紀氏と紀貫之——古代豪族紀氏の特殊性

憶良による紀某の糾弾……………	96
個人的紀氏弁護……………	105
紀貫之……………	111
紀氏と太子や人麻呂との関係……………	114

第6章

斉明天皇と聖徳太子、そしてその子等

由縁ある雑歌と『日本書紀』に見る斉明帝親征の意味……………	118
牛に引かれて善光寺参り……………	128
熟田津の歌と現実世界での小野の分裂……………	136
天武天皇の皇子皇女の出自について……………	146

第7章

小野小町と小野篁

小町と篁を結ぶ紫式部……………	150
業平の詠んだ小町の髑髏の周辺……………	158
小町の雨乞ひの歌……………	161
小野好古と善光寺……………	162
光源氏の源融説について……………	163

第8章

相互関連を感じさせる『小倉百人一首』の歌々

解釈の仕方を教える導入部の歌……………	167
古を伝える歌……………	170
小町と周辺を詠んだ歌……………	173
紫式部考……………	178
結びの第一〇〇番……………	180

第9章 再び菅原の里と土師氏

- 手懸りの少ない問題……………182
- 菅原の里を詠んだ歌の再考……………186
- 泊瀬の地の歴史と菅原の里の関係……………190
- 土師氏のその後……………194
- スサノオと神牛……………195
- 土師氏の元来の姓……………196
- 太子の母、穴穂部間人皇后……………197
- 出雲族の後裔の残したヒント——葛城氏再考……………199
- 火の鳥……………202
- 人麻呂の『百人一首』の歌の復習……………204

おわりに

- 付録1 歴史解釈のまとめ……………210
- 付録2 公式年表と本書での解釈……………216
- 付録3 人麻呂に関連した系図……………219
- 参考文献 ……222

第1章 柿本人麻呂と小野小町を繋ぐもの

歌聖とされた柿本人麻呂と、古来日本の美人の典型とされた小野小町が、出雲の因幡の白兔の寓話を通じて繋がりを持っているとしたら意外に思われる方は多いかもしれない。しかし、この白兔の伝承が私が古代趣味に引きずり込まれたきっかけであり、また奈良京都を歩き、歴史書を読み、伝承を調べ、さらには子供の頃から意味も分からずに暗誦していた『百人一首』の自分なりの再解釈に至る始まりだったので、これを簡単に復習しておく。

古事記の因幡の白兔とわに

白兔は沖の島に住んでいたが、本土の因幡の気多の岬に渡ろうとした。そこで鰐（日本）のワニは鮫のことを騙していった。「俺の種族とお前の種族とどちらが多いか比べたいかどうか。お前の種族をすべて連れてきて、沖の島から因幡の気多の岬まで一列に並べせる。そしたら、おれはお前の背中を踏んで走りながら数を数えよう。そうすればどちらが多いかわかるだろう。」鰐は騙されて一列にならんだので兔は数えつつ飛んだ。もう少しで本土に着きそうになったところで調子にのって「お前らは騙された。」といっ